

津市立ハッ山小学校だより

この学校にわたしたち

2023. 2. 13 NO 54

幼児教育から学ぶ～津市架け橋プログラムの取組より



AさんがBさんに「こおろぎのえさにするで、その虫を僕のところにに入れて」と言っていました。でも、Bさんはあげたくないで「いやや」を繰り返していました。2人はこの繰り返して。「こおろぎのえさがないやん」その時Bさんが言いました。「この幼虫みんな育てたくないの？」Aさんはそれを聞きしばらくだまりこみました。その後、「ま、いっか。ちがう虫を探したら…」と考えを変えました。「でも、こおろぎって何食べるの？」「カエルはこおろぎを食べるよ」「え～、じゃあ、かえるはいれたらあかんやん」「先生にききにいかか」2人で先生のところに聞きに向かう写真です。

令和6年度から津市架け橋プログラムが市内全小学校で実施されます。これは津市の教育に関わる大切な3つの柱のうちの1つです。架け橋プログラムとは“架け橋期”とよばれる5歳から小学1年生までの、遊びから学びに変わっていくこの2年間の時期を幼児教育と学校教育が同じ視点をもって子どもの姿を話し合いながら活動と学習を円滑にしていく取組のことをいいます。この架け橋期の幼児教育・学校教育が常に話し合い、お互いのことを正しく知ることによって将来の子どもたちにとって大切となる学ぶ意欲・協力し合う力・最後までやり遂げようとする力…などのテストで測定できない力（非認知能力）を育てていくことができるのです。写真は生活科の学習時間、運動場で虫取りをしていた時の1コマです。AさんはBさんに「こおろぎのえさにしたい」という思いだけを伝えました。Bさんは「いやや」とだけ繰り返し伝えましたが最後に「この幼虫…」と自分の思いを伝えます。このことによってAさんの考えも変わり、一緒にこおろぎが何を食べるのかを聞きに行くことにしたのです。小学校の授業や休み時間、こんなドラマ（エピソード）はいっぱいあります。特に架け橋期と呼ばれる時期はこのような経験を通して、「もっと調べてみよう」「工夫してやってみよう」などという非認知能力が育っていくのです。そして、この力は2年生以降になって大きく花を咲かせていってくれるでしょう。今年度、津市のモデル校として津市架け橋プログラムの取組を職員全員でさせていただき、職員の授業に対する考え方や子どもに対する見方が少しずつ変わってきたようです。今後も一人一人の思いや解決しようとしている姿を温かく見守りながら幼児教育と連動した学校教育を進めていきたいと思っております。（写真は10/25 1/29の研修会の様子）

